

第3 「本件得点調整が説明されていれば受験しない」とはいえないこと

1 医学部受験生の受験動向について

(1) 複数の大学を併願して受験していることが窺われること

私立医科大学は、募集定員が少ないこともあり、どの大学も合格率が極めて低い（乙15）。このため、一般的には、医学部受験生は、医学部合格を得るために、単一の大学に絞るのではなく、複数の大学を併願して受験するものといえる（乙16）。実際、試験日程が重複していないので、併願受験することも可能である（被告第1準備書面第2、3（4）・7頁。甲7）。

補足すると、私立医科大学では、いずれも合格者数が入学者数（募集定員）を大きく上回る数となっている（乙15）。仮に全ての受験生が単一の大学に絞って出願しているのであれば、「合格者数＝入学者数」となるが、現実には「合格者数>>入学者数」となっている。このような実態からは、全体としては、受験生は複数の大学を併願し、複数の大学に

合格すれば、その中から最も希望する大学へ入学し、他の大学への入学を辞退していることが明らかである。

(2) 併願の傾向

もともと、複数の大学を併願して受験しているからといって、受験生の動機は原告が主張するように医学部にさえ合格できれば大学は問わないという単純なものではない。被告第1準備書面第2. 3 (3) (5～7頁)において述べたとおり、出願の動機は様々である。併願受験をするとしても、個々の受験生の実情に応じて第一志望、第二志望……との希望が存在する。

そのため、個々の出願の動機については個々人に確認するほかないものの、受験予備校の分析等によれば、全体として捉えた場合には、一般的に以下のような傾向が指摘されている。

私立医科大学には、①第二次世界大戦以前に設立された「私立旧制医科大学」、②終戦後の学制改革期に設立された「旧設私立医科大学」(本学もこれに含まれる)、③それ以降に設立された医科大学がある(乙17)。

乙18は、上記の分類ごとに、受験予備校が分析した偏差値や学費や医師国家試験合格率等をまとめたものである。全体として捉えた場合には、少なくとも学費がより低額である大学を志向する傾向があるところ、学費は①が最も低額で②、③の順に続き、偏差値は①が最も高く、②、③の順に続いている。医師国家試験の合格率も概ね①、②、③の順に下がる傾向となっている。

このような受験予備校の分析によれば、一般的に、受験生自らの学力に応じて①、②、③の順に志望する傾向があるということになる(もともと、基礎学力だけが出願動機となるものではなく、大学の校風、教育内容や

質など様々な要素がある。)

2 本学を併願する可能性が高いこと

受験予備校による「可能な限り多く受験するべきだと思います。偏差値が自分の実力からかけ離れたような大学はさすがに受験するべきではありませんが、中堅校であればできるだけたくさん受けたほうが良いと思います。」との指摘があるように(乙16)、受験生は、いわゆる滑止め等も含めて②のグループを複数校併願する可能性が高く、実際、②のグループは受験生数も多い(乙15)。

しかし、関東地方の②のグループに属する医学部は6校しか存在しない。このうち順天堂大学は偏差値が高めであり、東京女子医科大学は女子しか受験できない(男性及び共学を希望する女子にとっては出願候補とはならない)から、仮に、多浪生あるいは女子において、本件程度の得点調整が実施されることを認識していたとしても、関東にある②を志望する受験生が、その教育内容や質、学費、立地等を踏まえて、少なくとも本学を併願受験する可能性は高い。

すなわち、受験予備校が分析するように、医学部の合格率が低く、合否を分ける順位には多くの受験生が横並びとなり、当日の出来・不出来次第で合否が変わってしまうことから、実力があっても複数校受験が一般的であること(乙16)、もともと医学部自体に限られた数しかなく、受験生の実力や通学可能範囲、支払える学費の上限等から志望校の範囲は一定数に絞られること等の医学部受験の特殊性もあり(乙18参照)、本件得点調整が説明されていれば受験生が本学を受験しなかったとは言えない。

3 男女比、現浪比を説明していたこと

本学では、平成29年度及び平成30年度において、受験を検討する者

に配布する大学案内において、志願者、受験者及び入学者のそれぞれについて、男女や現役・浪人といった属性ごとの具体的な人数を明らかにしてきた（乙19）。他の医科大学においても同様の取組みは見られるところである。受験大学を選択する際の判断資料としては、これらの情報を開示すれば十分に判断に足りるものである。

これらの情報は、本件得点調整の結果に相当する情報であるところ、この人数比からすれば、属性ごとの入学のしやすさは十分に判別可能であり、受験生は、これらの情報を踏まえて受験していたのであるから、本件得点調整が説明されていれば本学を受験しなかったとは到底いえない。